

平成20年10月3日

国土交通省道路局長 様

占冠村長 小林

豊



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のあった標記の件について、別紙により回答します。

（総務課庶務企画グループ）

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式①

北海道占冠村

- ・ 既設道路の維持補修という観点からの財源維持を望む。道路特定財源が、「新たな道路をつくるか否か」という面で終了した感がある。
- ・ 交通安全施設の研究・充実を一層進めてほしい。科学的な検討を加え、自動車メーカーの車両開発と歩調を合せた道路、及び施設の改善を望む。
- ・ 人と車が共存できる国道整備を望む。特に国道用地を利用した長距離の自転車道路網は、北海道の観光振興にも大きな可能性をもたらすのではないか。

今後の道路行政についての意見・提案

②ー１ 地域の現状と抱える課題

様式②

北海道 占冠村

○現状 国道 237 号の観光ルートとしての位置づけから、花人街道 237、シーニックバイウェイなどによる景観の整備をめざす。	○課題 ・人口減少により沿道の植栽量維持が困難となる。 ・花壇等の維持をボランティアに頼っている部分が大いいため全体的な量の不足が否めない。
---	---

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式③

北海道占冠村

・交通の要衝を活用した村づくり

占冠村は道東自動車道のインターチェンジ2箇所（開通見込みを含む）を有し、また、国道 237 号と主要道道々張新得線の交点でもある。交通の流入による経済の活性化で人口の減少に対処できる村づくりを目指す。

今後の道路行政についての意見・提案

様式④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価など）

北海道占冠村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価など	○その他
景観を重視した道路づくり	「ふれあいの道」の補修について 平成 9 年、国道 237 号の占冠村市街部分約 1.6 km が「ふれあいの道事業」で拡幅され、斬新な街並みが実現された。 完成後 10 年余りが経過し、特に歩道部分の劣化が著しいことから、安全面、景観面から補修が望まれる。	道道夕張新得線赤岩トンネルの開通、道東自動車道トマム IC の供用開始などで村内の交通量が飛躍的に増加している。 ふれあいの道中央部にある道の駅への入り込みも増加していることから、補修により景観が整備され、観光対策、歩行者の安全対策に寄与する。	